

令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

1 令和6年度事業概要

静岡市が実施する三保松原の保全事業に対し、専門的知見をもって業務支援を行うとともに、静岡市からの受託事業を確実に実施し松原を良好な状態に維持・管理した。

また、外部研修や技術提携した樹木医との共同作業を通して、松原保全に係る専門知識や実践的な技術習得に努めるとともに、保全事業やモニタリング調査、樹木診断等の結果を検証し、適切に松原を管理保全するために必要となる業務提案を行った。

さらに、来訪者や地元住民の三保松原への関心と保全意識を高めるため、マツ材線虫病の被害状況や「羽衣の松」周辺の老齢大木の樹勢状況を「技術情報」としてホームページ等で公表するとともに、三保松原における四季の動植物の様子をInstagramで紹介するなど情報発信に努めた。

その他、地域住民や企業団体によるボランティア活動支援や地元主催の清掃活動、エスパルスと連携した松原保全イベントに参加協力した。

自主事業としては、市からの依頼により「羽衣の松」西側の遊歩道、「神の道」東側道路及び東海大学西側自転車道において、通行に支障となる枯れ枝の撤去や剪定作業を実施するとともに、樹木医の補助員として樹木診断を行った。

2 事業別実績

(1) 受託事業 ～日常的・専門的な管理～

静岡市が実施する保全事業の業務支援及び受託事業について、専門的な知見と技術を活かし実施した。

① リスク軽減事業

- ・ マツ材線虫病防除

伐倒駆除、薬剤散布（環境影響調査含む）及び予防剤樹幹注入の設計・監理を行うとともに、予防剤樹幹注入の施工業者に対し、適切な施工方法を指導するため現地研修を実施した。

- ・ 老齢大木の樹勢回復

技術提携している樹木医とともに、老齢大木の樹勢回復に係る土壌改良後の状態を検証するため、土壌改良モニタリングを実施した。

また、公益的機能モニタリング調査、「羽衣の松」周辺の老齢大木の薬剤散布及び踏圧対策ルート維持の設計・監理を行った。

- ・ 危険木対策

マツの健全な生育と景観維持のため、技術提携している樹木医とともに、「神の道」と「羽衣の松」周辺の老齢大木 66 本を対象に外観診断、簡易内部診断、詳細内部診断（音波）を実施した。

また、来訪者の安全を確保するため、遊歩道周辺の危険枝対策の設計・監理を行った。

② 松原再生事業

- ・ 森林管理

松原管理システムによるマツの個体管理として、今年度実施した伐倒駆除、予防剤樹幹注入、薬剤散布、樹木診断等のデータを更新した。

また、三保松原の保全活動に参加するボランティア等に対し、松葉掻きや除草等の指導、作業に必要な道具の貸出を行った。

- ・ 圃場の運用管理

三保松原圃場において、播種・さし木・つぎ木による三保由来のマツ苗の生産を継続し、母樹及び苗の生育環境を整えるため、除草・灌水・施肥・病虫害を防除するための薬剤散布を定期的実施するとともに、新たな苗床を整備し生育した苗の植え替え作業を行った。

また、神奈川県藤沢土木事務所の圃場を視察し、担当者からマツ苗の移植技術について学んだ。

さらに、育苗等の技術的内容をまとめた「管理及び育成マニュアル」

を更新した。

③ 支援（監理）、提案

市が実施する保全事業、モニタリング調査、樹木診断等の結果を踏まえ、松原保全に必要な業務提案を行うとともに、業務が円滑に実施できるよう、専門的な知見をもって情報提供や業務支援を行った

（２）三保モデル確立事業 ～自主事業～

・講習会等の開催

三保地区文化祭に出展し、三保松原における保全対策や研究所が果たす役割等を紹介した。

また、国・都県の公設林業試験研究機関や県のインターンシップ実習生による現地研修において、三保松原の保全対策について講師を務めた。

（３）公益事業 ～自主事業～

地域やボランティア団体等と連携し、水平的協働による保全活動を積極的に支援するとともに、保全技術や保全方法の向上に取り組んだ。

① 保全活動の支援

来訪者、保全団体、企業 CSR 活動など、松原保全に参加する人々の意欲を高め、効果的な保全活動ができるよう支援するとともに、「みほしるべ」から要望のあった保全活動に必要な資材等を支援した。

（４）研究開発事業 ～自主事業～

マツの保全や森林生態に精通した学識経験者や静岡県森林・林業研究センターなどの関係機関と連携し、組織の専門性、知見、技術力の向上を図るとともに協力体制を構築し調査研究を進めた。

① マツに関する調査研究

枯れマツ調査の結果をもとに、マツ材線虫病に感染した疑いのある

枯れマツの材辺を採取し、マツノザイセンチュウDNA検査を直営で実施し、被害木の早期発見と感染経路等の検証を行った。

② 適切な松原管理手法の確立

将来にわたり松原を適切に維持・管理するため、先端技術を活用した効率的かつ効果的な三保独自の管理手法について調査研究を進めた。

③ マツの圃場管理方法の調査研究

三保松原圃場において、母樹の生育状況を改善するため、肥料の配合や施肥の方法を検討し土壌改良を行うとともに、母樹の菌根菌の形成を図るためキノコから抽出した胞子液を散布し効果を検証した。

また、「羽衣の松」のクローン苗木を生産するため、さし木・接ぎ木の技術的な検証を継続した。

④ 東海大学との共同研究

大学から、マツに関する専門的な知見に基づく指導・助言の依頼があり、環境教育の一環として大学内のマツの生態調査を学生と共同で実施した。

(5) 教育研修事業 ～経営方針（目的・目標）実現のための事業～

三保松原の持続的な保全や研究開発に必要な知識の習得、技術力の向上に取り組んだ。

① 松原管理のための教育研修

公益財団法人静岡県造園緑化協会と静岡県が主催する予防剤樹幹注入技術研修会に参加し、松くい虫被害の対策と予防剤樹幹注入の施工方法について学んだ。

また、日本海岸林学会現地検討会に参加し、他都市の現状を把握するとともに適切な松原管理に必要な基礎知識の習得に努めた。

② 樹木診断技術の向上

腐朽による倒伏リスクを回避するため、外観診断から詳細内部診断に至るまで精度の高い診断技術の習得に努めた。

③ マツ材線虫病診断技術の向上

DNA検査機器を用いた感染木の診断技術を確立するため、研究所直営による検査体制を整えた。

(6) 収益事業

静岡市からの受託事業や自主事業を積み重ねることで、組織としての実績と職員の専門的知識や技術力の向上に努めており、収益事業として、市からの要請により、通行に支障となるマツの枝の剪定や枯れ枝の撤去、樹木診断の補助を実施した。